

第3次なかふらの町読書活動推進計画

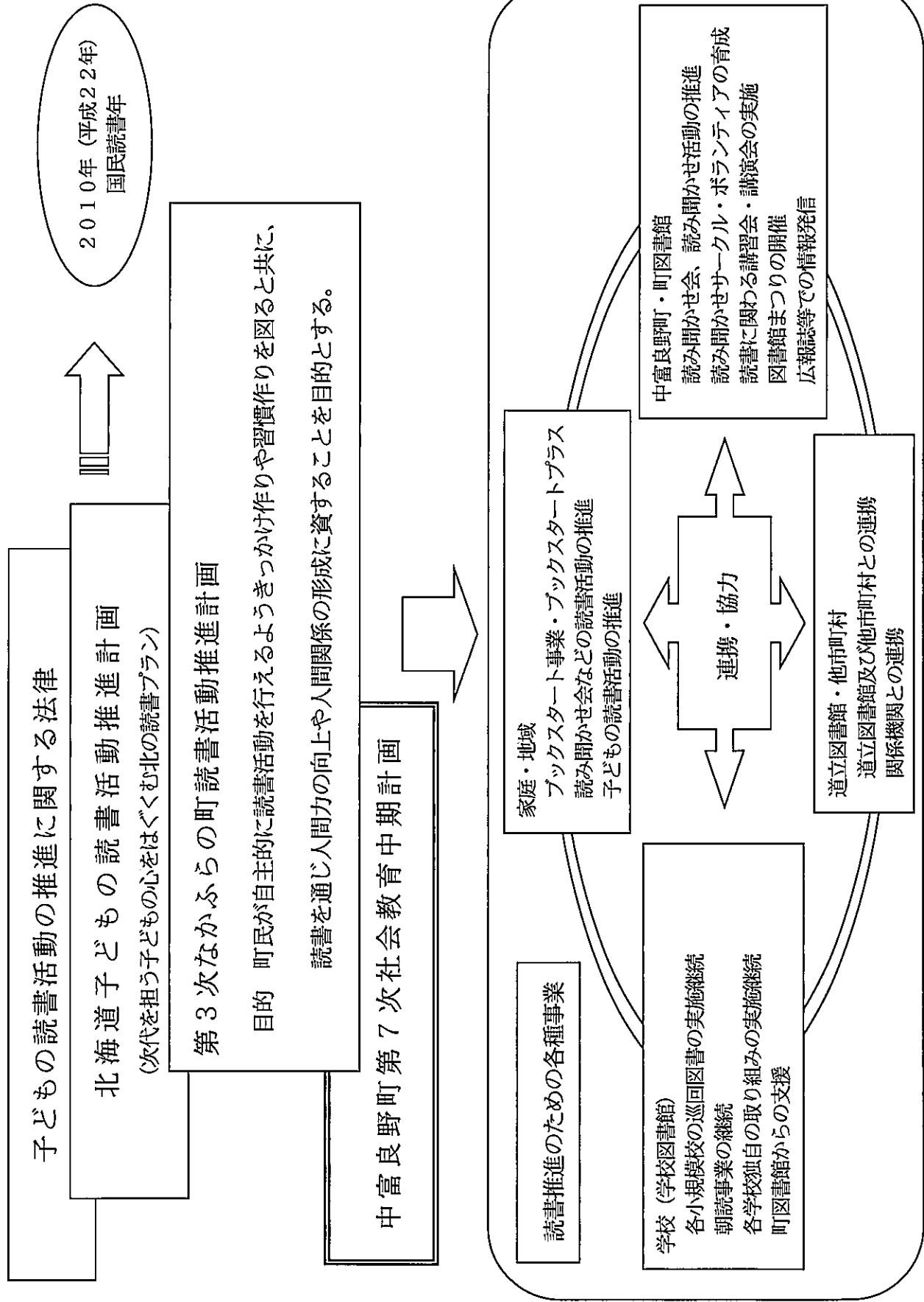
中富良野町教育委員会

「第3次なかふらの町読書活動推進計画」の取り組みにおける事業内容と事業の主体について(一覧)

区分	事業内容	事業						主体					
		乳幼児	小学生	中学生	大人	家庭	地域	児童施設	小学校	中学校	図書館	中富良野町	
家庭・地域・活動の推進	季節ごとの読み聞かせ会の開催	○	○	○	○						○		
	放課後子ども教室事業における読み聞かせ会の実施		○										
	子どもの読書活動の推進		○	○	○						○		
	「家読」の推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	ブックスタート事業、ブックスタートプラスの推進	○			○	○	○				○	○	
	朝読事業の継続		○	○		○	○	○	○	○		○	
	季節ごとの読み聞かせ会の開催や、読み聞かせ活動の推進	○	○	○	○						○		
中富良野町図書館の館における読書活動の推進	読み聞かせサークル・ボランティアの育成				○						○		
	ブックスタート事業、ブックスタートプラスの実施	○			○	○	○	○	○		○	○	
	図書館まつりの開催	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	レファレンスサービス、リクエストの受付	○	○	○	○						○		
	読書にかかる講習会・講演会の実施				○	○	○	○	○		○	○	
	「図書館だより」や「広報なかふらの」での情報発信	○	○	○	○						○	○	
	学校・学校図書館への各種支援		○	○					○	○	○		
	各小規模校の巡回図書館の実施継続		○								○		
	各小規模校の巡回図書館の実施継続		○								○		
	学校・学校図書館への各種支援		○	○						○	○		
学校などにおける読書活動の推進	朝読事業の継続		○	○								○	
	各学校独自の取り組みの継続		○	○								○	

※記載の重複している事業内容は、それぞれが主体となって実施・協力を必要とする内容となっている。

第3次なかふらの町読書活動推進計画の概要



目 次

第1章	なかふらの町読書活動推進計画の基本方針	・・・・・・・・・・	2
	1. 読書活動の意義	2. 計画策定の背景	3. 計画の目的
	4. 計画の体系	5. 計画の対象	6. 計画の期間
第2章	第2次（H25～H29 実施）なかふらの町読書活動推進計画の取り組み状況	・・	4
	1. アンケートの分析結果について （小学生・中学生・保護者（未就学児）・ 小学校・中学校・保育施設・関係団体・来館者）		
	2. 推進方策・核重点項目の確認について		
	Ⅰ 家庭・地域における読書活動の推進		
	Ⅱ 公民館図書室における読書活動の推進		
	ア. 「ふれあいセンターなかまーる」への移転による図書館としての運営転換		
	Ⅲ 学校などにおける読書活動の推進		
	ア. 児童生徒の読書習慣への取り組み		
	イ. 児童巡回図書の実施		
	ウ. 学校（学校図書館）との連携		
第3章	第3次なかふらの町読書活動推進計画の取り組み	・・・・・・・・・・	11
	Ⅰ 家庭・地域における読書活動の推進		
	Ⅱ 町図書館における読書活動の推進		
	ア. 複合施設「なかまーる」として……図書館機能の強化		
	イ. 学校・学校図書館への公共図書館からの支援		
	Ⅲ 学校などにおける読書活動の推進		
	ア. 児童生徒の読書習慣への取り組み		
	イ. 児童巡回図書の実施継続		
	ウ. 学校（学校図書館）との連携		

第1章 なかふらの町読書活動推進計画の基本方針

1. 読書活動の意義

近年、子どもの読書離れ、活字離れが学力低下の原因としてクローズアップされています。文部科学省の「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」（平成28年度調査）によれば、小学生・中学生では平日に読書をまったくしない児童・生徒が1～2割、高校生になると平日に読書をまったくしない生徒の割合が4割以上であるという調査結果となっています。その要因として、テレビやインターネット、スマートフォンなどの様々な情報メディアの発達・普及の影響や、幼少期における本への関心の薄さなどが指摘されています。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条において、読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするとあるように、私たちが成長していくうえで、本との関わりを避けて通ることはできません。

特にこれからの次代を担う子どもたちが健やかに成長するためには、考える力を培い、豊かな情操を養い、幅広い知識を習得するためには、幼少期に読書習慣を身に付けることが大変重要です。

2. 計画策定の背景

平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、それを受けて、道教委においては、平成15年11月に「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定しました。さらには、平成20年6月には、2010年（平成22年）を「国民読書年」にすることが衆参両院本会議において決議されました。決議では、「人類は文字・活字によってその英知を後世に伝えてきた。更に発展させ、心豊かな社会の実現につなげていくことは、今の世に生きる我々が負うべき重大な責務である。」としています。

本町でも、これらの趣旨に基づいて、子どもたちだけではなく成人も含めた全町民を対象にした「なかふらの町読書活動推進計画」を策定し、読書活動に対する体制、環境整備、読書週間を身につけるための取り組みを推進してきました。

3. 計画の目的

第2次計画（H25～H29実施）の期間が平成29年度で満了となることから、その計画の推進状況を検証し、今後も継続して子どもの読書活動の推進を図ることが必要です。

町民がいつでもどこでも自主的に読書活動が行なえるよう、きっかけづくりや読書

活動の習慣づけを図るとともに、読書を通じて人間力の向上や人間関係の形成に資することを目的として、法の基本理念や北海道の推進計画を基本に、読書活動に関係する施設や学校、ボランティア団体や平成26年より運営開始しました中富良野町図書館などが連携し、「第3次なかふらの町読書活動推進計画」（以下「第3次計画」という。）を策定します。

4. 計画の体系

第3次計画の目的を達成するために、次に掲げる基本的な推進方策により、読書活動を推進します。

推進方策	重点項目
I 家庭・地域における読書活動の推進	1. 家庭での読み聞かせや、読書を楽しむ環境づくりへの取り組み 2. 図書事業による「絆」づくり 3. 読み聞かせサークル・ボランティアの育成
II 町図書館における読書活動の推進	1. 図書館を知ってもらう、積極的な広報活動 2. 複合施設の中の図書館として機能の強化 3. 公共図書館として、学校・学校図書館への支援
III 学校などにおける読書活動の推進	1. 児童生徒の読書習慣への取り組み 2. 児童巡回図書の実施継続 3. 学校（図書館）との連携

5. 計画の対象

第3次計画の対象は、年齢にこだわらず中富良野町民全てとします。

6. 計画の期間

第3次計画の期間は、平成30年度（2018年度）から平成34年度（2022年度）までの5年間とします。

また、必要に応じて計画の見直しを行いません。

第2章 第2次なかふらの町読書推進計画の取り組み状況

1. アンケートの分析結果について

平成29年10月に、各小中学校6校と児童生徒、子ども園・保育施設とその保護者（2施設）、関係団体、来館者に対し、「《本と読書》に関するアンケート」として調査を行いました。その調査結果より第2次なかふらの町読書推進計画の取り組み状況を以下の通りまとめます。

○小学生

小学3年生と5年生を対象とし、91人に調査しました。

設問「本を読むこと」に対し、57%の児童が「好き」・「まあまあ好き」と回答しています。また「本をどうして読むのか」という問には69%が「おもしろいから」と回答しています。

同時に「1ヶ月の読書冊数」についても「6冊以上」が27%、「3～5冊以上」が29%と、約6割近くの小学生が本を読むことに楽しさを見出しているようです。

○中学生

中学1年生と3年生を対象とし、98人に調査しました。

設問「本を読むこと」に対し、69%の生徒が「好き」・「まあまあ好き」と回答しています。一方、「読まなかった」と回答している生徒が21%います。児童においては「読まなかった」割合は12%であり、年齢が上がるにつれ、読書離れが進んでいるようです。

○共通

設問「携帯電話やスマートフォンの所持」については児童の内の11%が、中学生の内の56%がスマートフォンを所持していることがわかりました。

また「知りたいことがあるとき、どうやって調べるか」という問いに、「インターネットで調べる」と回答した割合は、小学生が66%、中学生が89%と、過半数の子どもがインターネット上の情報を辞書のように活用していることがわかります。このことから電子機器・コンピューター・ネットワークの技術が生活に深く根付いていると思われます。そうした環境下で、本と読書の魅力を改めて生活と結び付けていくことが必要だと考えられます。

○保護者（未就学児）

なかふらのこども園と、キッズハウスたんぽぽ園を利用している保護者を対象とし、54人に調査しました。

「好き」・「まあまあ好き」と回答した割合は94%と、ほとんどの保護者が本に対して良い感情を持っていることがわかりました。設問「誰が子どもに絵本などを読んでいるか」に対しては、「母」45%、「父」27%、「(子どもの)きょうだい」14%、「祖父母」9%の順に続き、読み聞かせが家族間の交流のきっかけとなっているようです。また「読み聞かせを始めた時期は何歳からか」という質問に対し、「0歳から」と答えた割合が65%と、【ブックスタート事業】が本と親しむきっかけづくりとして十分に有効であることがわかりました。

「幼い頃から本に親しむことは大切だと思うか」という質問に98%の保護者が「思う」と答えていることから、保護者に対して読書推進の活動が有効に機能しているといえます。

※【ブックスタート事業】とは

《ブックスタートは、0歳児健診などの機会に、「絵本」と赤ちゃんと一緒に絵本を開く楽しい「体験」をプレゼントする活動です。赤ちゃんと一緒に保護者が、絵本を介して、心ふれあうひとときをもつきっかけを届けます。(NPOブックスタートジャパンより)》

中富良野町においては平成16年度からブックスタート事業に取り組んでいます。平成27年度からは1歳児・3歳児も対象としたブックスタート事業のフォローアップ活動「ブックスタートプラス」も行っています。

○小学校・中学校

小学校は中富良野小学校、旭中小学校、宇文小学校、西中小学校、本幸小学校の5校に、中学校は中富良野中学校の1校、それぞれ学校図書館担当教諭を対象とし、調査を行いました。

「読書活動を盛んに行っているか」という質問に対しては、小学校は「盛んに実施」しています。また全ての小中学校において「全校一斉読書」を実施しており、内4校においては「読み聞かせ」を行っているなど、各学校で積極的に取り組んでいることがわかりました。

また各学校に応じて学校図書館利用のための工夫が見られました。「学年別読書リストの作成」や【「読書だいすき」活動】、【「家読シート」活動】といった独自の取り組みや、【「新刊発表会」】、「PTA、図書ボランティアによるポップづくり、飾り付けなど」の学校図書館を利用しやすくする工夫を行っていることがわかりました。

「学校図書館に対する要望・町図書館への要望」としては「学校図書館司書の配置」

やバーコード管理・運営可能な【「ICTによるネットワークシステムの導入」】、「図書館司書との連携」といった要望がありました。このことから各学校と連携を図りながら、それぞれの課題に適した効果的な取り組みを、模索していく必要があります。

※【「読書だいすき」活動】

読書のたびにシールをあげて学期ごとに表彰する、という取り組み。

※【「家読シート」活動】

10日間ほどの期間を設けて家での読書の記録を行ってもらう、という取り組み。

※【「新刊発表会」】

新刊が入ったら、図書室で全刊を並べて数日間展示する、という内容の取り組み。

※【「ICTによるネットワークシステム」】

各学校間で蔵書の情報を共有できる相互的なシステム。

○保育施設・関係団体

保育施設としてなかふらのこども園と、キッズハウスたんぼぼ園の2施設に調査を行いました。

両施設共に「本棚や図書コーナーを備えた場所があるか」に対し「ある」と答え、「どのような読書活動をしているか」については「絵本や紙芝居の読み聞かせ」以外にも、「講演会や研修会の開催」なども行っていることがわかりました。

そうした姿勢は「読み聞かせをすることは大切だと思うか」という設問に、共に「非常に大切だと思う」と答えていることからもうかがえます。また、現に「読み聞かせの頻度について」も「毎日」、または「2、3日に一回」行っていることから、両施設共に読み聞かせ活動に非常に力を入れていることがわかりました。

関係団体としては中富良野町児童館、読み聞かせサークル「ぴのきお」の2団体に調査しました。

どちらの団体も「読み聞かせ活動全般について、町図書館と連携し、子どもの読書活動の促進に取り組んでいるか」という設問に対し、「積極的に取り組んでいる」または「取り組んでいる」と回答していることから、町図書館との連携体制が構築されていることがわかります。

しかし「団体内で（読み聞かせ活動全般について）講演会や研修会を実施したり、検討しているか」という設問に対してはどちらの団体も「していない」と回答していることから、各団体では学習の機会が創りきれておらず、今後はこうした方向に協力の手を伸ばしていく必要があります。

○来館者

来館者にはアンケートの趣旨を理解の上で、協力していただきました。館内窓口にアンケートを設置していたこともあり、「あなたは本を読むのが好きですか」という設問に対しては67%が「好き」、33%が「まあまあ好き」と回答しました。「図書ボランティア活動に興味や関心、または参加してみたいと思いますか」という設問には50%が無回答でしたが、残りの50%が「(興味や関心が)ある」と答えています。

しかし、提出のあった件数は全部で6人であったため、全体の意見として採択するには不確実な人数であるといえます。

2. 推進方策・各重点項目の確認について

次に第2次計画において推進方策・重点項目とした方針を確認します。

I 家庭・地域における読書活動の推進

乳幼児期に行なう読み聞かせは、子どもが本の楽しさを知る大切なきっかけづくりとなります。また、本の楽しさを知った子どもたちが、次に本と出合う喜びを知るためには読書の習慣化が必要となります。その礎となるものとして「家読(うちどく)」の推進を、第2次計画において進めてきました。

「家読」とは「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味します。この家読は、「朝読(朝の読書)」の家庭版として考えられています。家族で本を読んでコミュニケーションをとり、「家族の絆づくり」を図ることを目的としています。同じ時間、同じ空間を家族で共有し、読んだ本について語ることで、本をより好きになれるよう働きかけを行ってきました。

現に効果があったかどうかについて、実施したアンケートから確認します。

設問「絵本の読み聞かせなどをしてもらったことがあるか」に対し、「たくさん読んでもらった」割合として小学生が75%、中学生から62%の回答があったとおり、多くの家庭・保護者において実践されてきたことがわかります。中富良野町においては平成16年度から継続して「ブックスタート事業」を行っており、乳幼児期に本と接する機会となっていることがわかりました。

半面、アンケートの設問「家族で本について話題になることはあるか」という問いに対し、「よくある」と答えた割合は小学生で4%、中学生で6%、「ときどきある」と答えた割合はそれぞれ34%、36%となっています。このことから子供だけでなく、大人に対しての「家読」も推進する必要があると考えます。

《第3次計画の取り組みに向けて》

町民、主に子どもが成長していく過程で読書は必要不可欠であり、家庭での読書週間を身につけるためには、日頃から本に接する機会を設けることが大切です。その習慣作りとして、平成27年度より7ヶ月児・1歳6ヶ月児・3歳児健診時のブックスタートプラスを新たに始めました。また平成29年度からは幅広く絵本と接することができるよう、ブックスタート事業の際に図書館で作成した「ブックリスト」の配布を始めました。

子どもの読書活動の推進としては、児童向けの図書の展示を、季節の変化や行事に合わせて行う他、ゲーム的な要素を取り入れたイベントや貸し出しの取り組みも行い、図書館、本を楽しめるような工夫を凝らしてきました。またボランティアサークルによる各学校での読み聞かせ会の実施を続け、学校とも協力し読書活動推進を行うことができました。

大人に対しては、広報「なかふらの」や「図書館だより」といった媒体を活用し、読書に関するチラシ等を作成し、時流に乗った情報発信を続けてきました。

今後も継続して実施し、町民の本・読書に関する意識を高めていきます。

Ⅱ 公民館図書室における読書活動の推進

公民館図書室は、町民にとって気軽に利用でき、たくさんの本と出会い、読書を楽しむことができる場として、読書活動の推進に大きな役割を担ってきました。本の貸し出し業務のみならず、本町の自然や歴史・文化に関する資料の収集・保存やレファレンスサービスなど様々なサービスを提供する場でもありました。

平成26年度よりオープンしました「中富良野町図書館」となってからも既存のサービスをそのままに、夏・冬は「読み聞かせ会」の会場として、また毎年秋頃に開催の「図書館まつり」の中心として、より一層充実した環境で読書活動の補助を担ってきました。

ア. 「ふれあいセンターなかまーる」への移転により図書館としての運営転換

平成26年度よりオープンしました「ふれあいセンターなかまーる」において、「中富良野町図書館」と名称を変更し、運営を開始しました。

新たに乳幼児読み聞かせコーナーの設置や、閲覧コーナーやAVコーナー、学習スペースの充実と、親子を含め、子どもから高齢者まで幅広い年代が利用しやすい環境を整備しました。

《第3次計画の取り組みに向けて》

充実した環境を備えた町立図書館は、児童コーナーの設置により親子の利用が、学習コーナー設置により中高生の利用が、読書以外にも読み聞かせや学習の場としても人の集まる場所となりました。また閲覧コーナーができたことでゆっくり図書を読むなど、多種多様な利用の仕方を提供できるようになりました。

併せて平成26年度からは試験的に開館時間の延長を実施してきましたが、この夜間開館時間の延長について、3年間の現状を整理しますと、季節間で人数に大きな差が出ていることがわかりました。

今後も利用者のニーズを模索し、町民へのアンケート等を参考にしながら、図書館を有効に活用できるよう取り組んでいきます。

Ⅲ 学校などにおける読書活動の推進

学校は子どもたちが日常的に本に接する場所として、読書活動や読書指導の場としても重要な役割が求められています。読書活動を通じて人間形成、自己形成に大きく影響し、学力の向上につながるだけでなく、人と本、そして人と人のつながりも生み出します。また「生きる力」を育むことを目指し、読書活動から「思考力、判断力、表現力」などを学び取ることを目的とし、本町教育の目指す姿である「心豊かに学び、明日のふるさとをともに創る人を育む」につながるよう推進してきました。

ア. 児童生徒の読書習慣への取り組み

朝読書の継続と読み聞かせサークル・放課後子ども教室事業の際も読み聞かせ会の実施や、読書活動事業へ参加することで読書習慣の定着を目指しました。

また今回のアンケートにより、各学校独自のやり方で読書の奨励や、学校図書館利用の促進を図る取り組みを行っていることがわかりました。

イ. 児童巡回図書の実施

平成25年度より開始しました各小規模校における巡回図書により、町立図書館を利用することができない子どもたちに読書機会の提供をすることができました。

ウ. 学校（学校図書館）との連携

学校と読み聞かせサークル・ボランティアやPTAと連携し、読み聞かせ会をはじめとした読書活動の実施に努めました。平成29年度からは宇文小学校にも読み聞かせ活動を行うことができるようになった結果、町内全小学校に読み聞かせに行けるようになりました。

また平成26年に図書館となってからは、各学校で社会見学や調べ学習を目的として図書館に来館してもらい、授業の場においても活用してもらうことができました。

《第3次計画の取り組みに向けて》

読み聞かせ活動は充実したものとなりましたが、読み聞かせサークル自体は人員の入れ替わりのため減っていていることや、図書ボランティアも高齢化により辞めてしまう方が多く、それぞれ減少傾向にあります。今後は各団体の積極的な募集や、育成を目的とした講演会等の開催も検討の必要があります。

学校図書館の運営は各学校により行われており、その整備状況について、町図書館から現状確認は行っていないところでした。また取り組みに関して言えば、朝読書の実施以外にもそれぞれの特色を活かした独自の取り組みを行い、読書活動の推進を行っています。そういった取り組みの情報を共有し、活用していくことがより豊かな読書活動の推進につながります。今後は各学校図書館の実態とそれぞれの活動を取り入れ、展開していくことが必要だと考えます。

第3章 第3次なかふらの町読書活動推進計画の取り組み

I 家庭・地域における読書活動の推進

乳幼児期に行なう読み聞かせは、子どもが本の楽しさを知る大切なきっかけづくりです。また、本の楽しさを知った子どもたちが、次に本と出合う喜びを知るためには読書の習慣化が必要です。そのためにも「家読（うちどく）」を推進します。

「家読」とは「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味します。この家読は、「朝読（朝の読書）」の家庭版として考えられています。家族で本を読んでコミュニケーションをし、「家族の絆づくり」をすることを目的としています。同じ時間、同じ空間を家族で共有し、読んだ本について語ることで、本をより好きになれるよう働きかけます。

- ・ブックスタート事業、ブックスタートプラスの推進
- ・季節ごとの読み聞かせ会の開催や、読み聞かせ活動の推進
- ・子どもの読書活動の推進
- ・「家読」の推進
- ・図書室まつりの実施
- ・読み聞かせサークル・ボランティアの育成

II 町図書館における読書活動の推進

図書館は、町民にとって気軽に利用でき、たくさんの本と出合い、読書を楽しむことができる場として、読書活動の推進に大きな役割を担っています。

町の図書館として、本の貸し出し業務・レファレンスサービスだけでなく、本町の自然や歴史・文化に関する郷土資料の収集、地域に根ざした資料の収集にも力を入れていく必要があります。また学習コーナーが増えたことで中高生の利用は増えてきましたが、図書館の機能としての読書活動や、館内資料を活かしての調査学習などにはあまり利用が多くありません。そうしたことから利用の幅を拡げてもらえるような蔵書の整備や資料の収集が必要だと考えられます。

平成26年より図書館として開館し数年が経過しましたが、来館者アンケートの協力枚数などからもわかりましたが、図書館の持つ機能について、広く町民に周知することも必要と考えます。そのため、よりわかりやすく、積極的な広報活動を行っていく必要があります。

ア. 複合施設「なかまーる」として……図書館機能の強化

現在、図書館は複合施設「なかまーる」の2階に位置しています。同2階には教育委員会が、そして公民館としての機能も併せ持っており、また1階には町福祉課、社会福祉協議会、ふれあいサロンをはじめとし、デイサービスセンター、老人福祉センター、保健センターも兼ね備えています。

そうした多種多様な属性を有しているということは、様々な年代の町民が訪れる機会があるということを示しています。そこで前述の部分を含め、以下のサービスの強化に努めていきます。

- ・自然や歴史・文化に関する地域に根ざした郷土資料の収集と学習資料の充実
- ・インターネット上や広報、図書館内での、図書館の情報と地域の情報発信の強化
- ・高齢者サービスの拡充………デイサービス利用者などへの協力支援
- ・町福祉課との連携・支援……ブックスタート事業、乳幼児と保護者へのサービスと支援、障がい者サービスの拡充、健康関連資料を用いた取り組み等
- ・公民館との連携・支援………サークル活動との連携・資料提供、講座等

イ. 学校・学校図書館への公共図書館からの支援

各学校は、学校図書館担当教諭の工夫やPTA・地域のボランティアの理解と協力を受けて、様々な試みを行っています。中富良野町図書館は公共図書館として、各学校への各種支援を行っています。

- ・児童・生徒への読書活動の支援…巡回図書、読み聞かせ活動の支援
- ・授業や学校の活動の為の支援……団体貸し出し、レファレンス等
- ・学校図書館の整備の支援………学校図書館の環境整備、読書活動の支援

III 学校などにおける読書活動の推進

学校は子どもたちが日常的に本に接する場所として、読書活動や読書指導の場としても重要な役割が求められています。読書活動を通じて人間形成、自己形成に大きく影響し、学力の向上につながるだけでなく、人と本、そして人と人のつながりも生みます。また「生きる力」を育むことを目指し、読書活動から「思考力、判断力、表現力」などを学び取ることを目的とし、本町教育の目指す姿である「心豊かに学び、明日のふるさとをともに創る人を育む」につなげていきます。

ア. 児童生徒の読書習慣への取り組み

朝読書の継続はもちろん、読み聞かせ会の実施や読書活動事業へ参加することにより読書習慣の定着を目指します。

また町図書館が中心となり、各学校図書館の取り組みを調査し、担当教諭内で共有していきます。

イ. 児童巡回図書の実施継続

現在は周辺の小学校4校（旭中・宇文・西中・本幸）において、児童巡回図書を行っています。100冊の図書を3ヶ月ごとに入れ替え、新たな本に触れる機会を作っています。また「読書ノート」にそれぞれ読んだ本の感想や次に読む人へのお勧めの本などを記入してもらい本を通して人とのつながりを図っています。今後も継続した実施を行っていきませんが、「読書ノート」については平成25年度の開始以降、なかなか記入が増えていない現状となっています。この点については本を通じた交流が増えるよう、更なる工夫を施して実施していきます。

ウ. 学校（学校図書館）との連携

- ・学校図書館の利用促進を図るため環境整備に努めます。
- ・学校と読み聞かせサークル・ボランティアやPTAと連携し、読み聞かせ会をはじめとした読書活動に努めます。
- ・各学校の図書担当教諭と現状を把握しながら、各学校にあった読書活動を推進するよう努めます。